

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371301124		
法人名	株式会社アイ・ユーネット		
事業所名	グループホームとまり木守山(1F)		
所在地	名古屋守山区翠松園2丁目2101番地		
自己評価作成日	平成29年 1月25日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=2371301124-004PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=2371301124-004PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋守山区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月 9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者本位を徹底し、ご利用様がホームに入居してもなお、その方の人生が継続して全うされますよう、全力で支援致します。その人らしい一日を、その人の意思でその人らしく生きる。そんな支援をして参ります。朝は自然起床、ご飯は何にしようかな。図書館で借りた本を返しに行く日、帰りにたまには外食し、帰ったらお風呂に入ろう。ご飯作らなきゃ。今日借りた本を夜に読んでみよう。それらすべてを、ご利用様の尊重すべき生活の姿とみなします。職員は共に寄り添い、ともに同じ時間を過ごしています。私達は、心に思うそれぞれの人生、生き方を尊重し、本気で向き合うチームです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は職員の個々の得意分野を最大限に引き出し、専門性を持った職員育成に取り組んでいる。日々の取り組みの中で、職員が「なぜ?」と疑問を抱き、職員自ら考える自立心を求めている。管理者と各リーダーは利用者本位を追求する強固な信頼関係を築き、今年度、リーダーが中心になって新たな挑戦を始め、起床・入浴・食事・就寝の時間の枠を外した。食事場面では食材業者を止め、食事目標「利用者がメニューを考え、スーパーに買い物に行き、調理する。どんなに時間がかかっても」を掲げ、「食事ガイドライン」を作成して支援している。アシスタントリーダーを配置したことで、チーム運営の結束と、きめ細かな支援に繋がっている。管理者を中心に、職員が一丸となって「行動を利用者自ら主体的に決める利用者本位」の理念の追求が続いている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は名札等に理念を記した状態で身に付け業務に入っている。またケア1つ1つが利用者本位になっているか、リーダー中心に指摘し合いながら意識共有している。	法人理念を抜粋した「利用者本位」が日々のケアの中で浸透しており、職員の言葉に自然に出てきている。家族アンケートでは「理念がしっかりしているので安心して任せられる」と称賛の言葉がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、役割も担っている(ゴミ当番・パトロール・避難訓練・町内清掃・草刈り)。また、ホームを行事などの集合場所として提供し、地域と溶け込んだ関係を築いている。	自治会の組長として地域行事に積極的に参加している。小学生の街中探検には保護者も付いて来ており、ホームの認知に繋がっている。実習生の受け入れも積極的に行い、双方向の交流がある。	ホームが地域に認知され、相談等は自然に行われている。認知症の関わり等について地域に向けて情報発信を行い、地域福祉の拠点としての役割を担って行くことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方から認知症の相談が増えてきている。また、散歩時に会われた方とお話をしたり質問を頂く事もあり、話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活・レクなどの利用者様のご様子や各ユニットの取り組み、またホームの介護方針、面会ではなかなか知りえない日常支援などを説明報告している。ご意見等には検討して運営に反映している。しかし、十分な開催数に至っていない。	地域包括支援センター・権利擁護センター・消防署指導課・家族・管理者が参加し、消防訓練開催に合わせて運営推進会議を開催している。避難訓練等の質疑・意見があり、サービスに活かしている。	制度的に2ヶ月に1回以上の開催が求められており、主役の利用者・知見者・地域代表等の参加により、多くの意見・提案がサービス向上に活かされる会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営・法改正についての疑問点のアドバイスにより、活用させて頂いたり、訪問時ホーム内の状況、運営推進会議結果、外部評価をお渡しして、活動状況を報告している。	生活保護受給者の関係で毎月窓口に出向き、報告・相談をしており、担当者との信頼関係は構築されている。介護保険課に出向いて運営推進会議の開催についての相談を行い、アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を把握する事で、身体拘束しない環境作りをしている。玄関、ユニット出入口は解放にし、出て行かれる際も制しないケアを心がけている。ミーティングなどで話し合い勉強している。	管理者・職員共に身体拘束による弊害を理解している。玄関・ユニットの出入り口は開放され、利用者が外出しそうな様子を察したら一緒についていく等、自由な暮らしを支援している。やむなくスピーチロックに陥ることがあるが、ミーティング等で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等にて身体的や言葉に関し、適切なケアとなるよう話し合っている。また、管理者やリーダーが頻繁に職員とコミュニケーションを取り、ストレスや悩みを抱え込まない取り組みもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにて利用されている方がいる為、管理者は理解をしたうえで連携を取っている。職員にも説明し、面談日には理解をしたうえで迎え、物品購入等の生活面において金銭関係の相談もさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読むだけでなく、具体的に説明し、理解・安心していただける様に努めている。不明点、疑問点については出来るだけ言いやすい雰囲気を作り、介護方針など詳しく説明し安心、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時には、直接話ができる機会なので、意見をいただける様に働きかけている。介護計画書説明・運営推進会議・外部評価のアンケート等、意見をいただける機会を設けて、実際のサービスにつなげている。	面会時には職員が利用者の近況報告を行い、家族から意見・要望が言い易い関係を築いている。毎月管理者からの便りもあり、家族アンケートでは「大変感謝している」「スタッフに満足している」等好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個性や自立性を重んじ、同時にチーム力にてユニット毎に運営をしている。日々のメンバーやミーティング等にて、一職員としての自覚と責任で発言できている。	職員から「利用者のことを良く知っているのは職員であり、自分たちに通院介助させてほしい」との意見が実現し、提案等自主性を認められた良好な関係がうかがえる。個々の職員に合わせたタイミングでの面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人にあった評価をし、不得意分野があっても自信を持って働けるよう取り組みをしている。また、労働条件の見直しも実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の得意とする仕事の専門性を個人研修や面談にて伸ばし、仲間同士その能力を尊重し合うことにより、職場でのやりがいに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や会合に参加しグループワーク等で、情報交換を行っている。その内容をミーティング等で発表を行うことで職員間で共有し、サービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ面談の時に管理者・職員も加わり、困っている事・不安な事・生活歴をお聞きしながら、大切にしている事、要望等を取り入れ、安心に繋がる様に工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からご要望等話されやすいよう言葉がけに努め、ホームで出来ること、困っている事、不安な事に対する説明・アドバイスをさせていただき、信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況をお聞きし、ホームでのサービスが要望に応える事が出来るか・ご本人にとってどうかをご家族様と話し合う事により、他のサービスも選択をしていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の立場に立ち、生活・活動・喜怒哀楽など共に行動・共感し、家庭的な空間作り心掛け、お互いに支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の関係を大切に、面会時や電話等にて日常の様子を伝え、情報を共有することにより、ご家族様からのアドバイスを頂き、一緒に利用者様を支えていただける方向に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所への個人レク、友人の訪問等、利用者様、ご家族様との交流を大切にしながら取り組みを実践している。また、入居前より長年通っている眼科など、遠くなくても引き続き通って頂いている。	毎月友人夫婦が訪ねてきたり、宗教仲間が来ている。家族と一緒に自宅に帰る等、馴染みの関係が継続できるように支援している。図書館や宝くじを買う、手紙を書く等、利用者の習慣の継続にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係に気づき、ストレスにならないよう配慮している。友人関係の構築が苦手な利用者様は、ご本人の気持ちを尊重しながらも仲間作りの支援をしてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先に極力情報提供し、転居自体がダメージにならないよう努めている。退所後もご家族様からの近況についてお話を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位を徹底し、思いや意向に気づく取り組みを日々努めている。生活歴、表情、様々なコミュニケーション方法にて思いを感じ取るよう努め、ケアプラン・申し送り・ミーティング等にて積極的に取り組んでいる。	支援の中で思いや意向が確認出来れば、すぐ実行している。余り喋らない利用者の生活歴・家族の情報・表情・1対1で傍に寄り添う時間・筆談等をコミュニケーション手段とし、利用者の思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に、極力ご家族様の情報により、暮らし方のパターンを把握する様努め、それに近い状況から生活をして頂く為、生活歴、情報、アセスメント等を職員がいつでも共有・把握出来る様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、心身の変化等を記録し、職員が共有する(出勤時申し送り・連絡ノート確認)変化があればその都度検討し、即日対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状況・ご家族様の意見を反映し、モニタリング、介護計画を作成している。日々の状況は個人記録に記載、申し送りから意見交換、プランに取り入れている。	更新時・状況変化時にサービス担当者会議を開催し、家族・本人・リーダー・職員が協議して「利用者主体」の介護計画を作成している。5日毎にモニタリングを行い、実情に即しているか否かを評価している。	思いの把握は出来ており、個別ケアの意識は高い。利用者・家族・職員が達成感を得ることが出来るよう、利用者の思いがより具体的になった介護計画を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化などを介護記録・申し送りノートに記入し、対応の変更にはその都度申し送りや連絡ノートにて情報を共有している。また、その場にいる職員にて瞬時に気づきを共有し連携する意識を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者様ひとりひとりの希望やケアからの気づきにより、当施設で実現可能なことは積極的に取り組む事を積み重ねて、サービス構築と満足度の向上に繋がるよう、努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの行事参加、消防署、自治会、地域の方々、医療関係の方々、飲食屋さん等、さまざまな方たちと関わりながら、またご利用者様がその環境において生活されていることを実感できる支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は面談時に伺い選択して頂き、ホームのかかりつけ医と歯科等の説明・同意を頂いている。提携医療機関は月2回の訪診を依頼、変化に応じて受診・指示を頂き、他の受診に対しても連携している。	かかりつけ医の選択は利用者・家族の自由であるが、全員が協力医を選び、月2回の往診を受け、2ヶ月毎に定期通院がある。他科受診や入院時の面会等は職員が行い、回復後の生活に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の週1回の健康チェックにより、職員では気づかない疾病の可能性を見つけて頂き、早期受診に繋げる連携をしている。また生活の中での健康維持に関するアドバイスを受け、ケアに活かされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、小さな変化を見逃さないよう、入院回避に努めている。入退院時には相互間の情報交換を行い、病院・提携医療機関・ご家族様との話し合いにより、早期退院に繋げている。面会に行き、少しでも安心して頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況に合わせ、主治医・訪問看護・ご家族様で話し合いの場を設けて、主治医から見解を話して頂いたうえで、医療提携での支援の説明、ご家族から希望をお聞きして、希望に沿うよう努めている。段階に応じて話し合いをしている。	今年度3人の看取りを行い、同時期に2人の利用者の終末期を経験した。「1日1日後悔が無いように」と職員が意見を出し合い、医師等と連携して看取り、利用者全員と職員がホームから見送ることができた。家族はその後何度も来所して思い出話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について全職員が把握している。考え得る急変や事故についてその都度応急手当等の実践力を身につけ適切な初期対応ができるようミーティング等にて確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し、災害時の誘導方法・役割をしっかりと担当別に把握して、昼夜問わず利用者様が避難できる方法を全職員が身につける方針を持っている。自治会のパトロールや防災訓練にも参加している。	消防署立ち合いの下、通報・避難・初期消火訓練を実施している。夜間想定訓練もあり、連絡網の確認等をしている。近隣から台風時の避難場所依頼や管理者の地域防災訓練参加等、双方向の協力がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア全体について個々の人格を尊重した対応を心がけている。言葉遣いは気づいたとき話し合い検討している。	起床・入浴時間等、利用者の生活を尊重した支援を実施し、自尊心が傷つかないように呼称には「さん付け」を行い、さりげない排泄確認や失禁対応をしている。入浴時にタオルを掛ける等、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活にて利用者様本位を徹底し、意思表示の難しい利用者様は、言動から思いを読み取り意思確認をしている。また、自己決定のある本来の生活スタイルに近づけることで、本人らしく生活ができるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自然起床など利用者様のペースを大切に、その中で希望に沿ったり、心身状態に合わせた支援をしている。日々流動的であるとの思いを持って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性に合わせた髪型、髪の色、服装、化粧、洋服を各々選んでいただいている。洋服の買物、バランスの取れた着方、ヘアカラーなど要望により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の能力や体調に則しながら、献立を考える段階から関わって頂き、買い物、調理と一緒に楽しみながら行い、生活の一場面として大切にしている。	1年間の業者メニューを見本に、今年度から食材業者をやめて一日3食をホームで作ることに変更した。ユニット毎にメニュー・食材の買い出し・調理・片付け等、力量・要望により利用者が役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、水分量、食べる能力等を把握し、職員間で共有しその時に合った形態を実行している。変化があれば利用者様の状態を話し合い検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ、歯科医の指導により、各利用者様が出来るところはやっていたき、出来ないところは職員が介助することで毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、誘導、声かけ等することで失禁をできるだけ減らし、トイレでの排泄を支援している。尊厳を大切にしながら自立を目指し必要に応じユニットで話し合いながら取り組んでいる。	排泄チェック表を付け、さりげない言葉かけや誘導を行っている。夜間ポータブルトイレを使用する利用者也、トイレでの排泄を基本としている。便秘の利用者は、寒天を毎日食するようにして便通を改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけることにより、パターンを知り、便秘を見逃さずそれによる影響を考えている。便秘対応として、散歩、水分補給、運動、牛乳摂取、と工夫した支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調も配慮し、声かけや誘導や入浴方法も個々に合わせた支援に努めている。ご希望とされる時間帯や頻度に応じ、1対1のゆっくりとした時間の中で思い思いの入浴を楽しんで頂けるよう心掛けている。	毎日の入浴準備があり、週2回を基本としている。夕食後に入浴する利用者もおり、好みの温度で寛げる様にしている。拒否する利用者には柔軟に対応し、足浴等の工夫もある。重度利用者にはリフトや2人対応もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間・起床時間を一律に定めず、自由にして頂いている。健康面に注意しながら昼寝も希望があれば休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容・目的を理解し、良好な医療連携を保ちながら体調の変化を観察することにより、安心して生活を送ることが出来るよう支援をしている。薬情をファイリングし、すぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活を実感できる様、掃除機、洗濯物干し、食事準備など、個々の力に合わせた支援をしている。また、人生においての思いもお聞き踏まえた支援をすることで、生きがいを持てる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、喫茶店、外食、買物、庭いじりは頻度多く行い、生活の一部と実感して頂けるよう心掛けている。また、図書館利用など個々の生活の中に自然と外出するような支援もしている。	日常的には近隣の散歩・外気浴・喫茶店・食材の買い物等に出掛けている。個別外出を大切に、名古屋ドーム・猿投温泉等に出掛けている。毎年コンサートに行く利用者が終末期であり、写真をもって代わりにコンサートに出掛け、その様子を伝えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来る方には個々で持っていていただき見守り、出来ない方は職員が見守り支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状況に応じて、申し出があるときは対応している。時には、暑中見舞い、年賀状を書いていただき、ご家族様に送り、関係継続して頂くように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境に配慮し、利用者様が混乱しない配置、利用者様の状況変化に対応し、季節感を感じる飾りつけ・光・明るさ・音の大きさ等、温度、湿度と心地よい空間となるよう、随時工夫している。	静かな環境のため、騒音や振動はない。食堂兼リビングは清潔が保たれ、ソファが置かれている。普通の家庭と同じように掲示物は少ないが、利用者の写真が日々の生活を伝えている。リビングで書き物をする利用者もおり、思い思いの過ごし方をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方との座る位置、テレビを見るときソファの位置と個々の変化に合わせた配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの道具・家具を使用して頂き、写真(家族の)・仏壇等大切にしているものを居室に置いて頂いて、利用者様の安心を少しでも支援できるよう工夫している。	遺影・仏壇・筆筒等、馴染みの物が持ち込まれており、清潔で整理整頓された居室となっている。自作の絵が飾られ、居室で今も絵を書いている利用者や大切な宝石が置かれている居室があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に行動できるように個々の力を全体的に考慮した環境作りをしている。必要に応じてタンスには物品名を掲示出来る事の支援に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301124		
法人名	株式会社アイ・ユーネット		
事業所名	グループホームとまり木守山(2F)		
所在地	名古屋市守山区翠松園2丁目2101番地		
自己評価作成日	平成29年 1月25日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371301124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371301124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位を徹底し、ご利用者様がホームに入居してもなお、その方の人生が継続して全うされますよう、全力で支援致します。その人らしい一日を、その人の意思でその人らしく生きる。そんな支援をして参ります。朝は自然起床、ご飯は何にしようかな。図書館で借りた本を返しに行く日、帰りにたまには外食し、帰ったらお風呂に入ろう。ご飯作らなきゃ。今日借りた本を夜に読んでみよう。それらすべてをご利用者様の尊重すべき生活の姿とみなします。職員は共に寄り添い、ともに同じ時間を過ごしています。私達は、心に思うそれぞれの人生、生き方を尊重し、本気で向き合うチームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は名札等に理念を記した状態で身に付け業務に入っている。またケア1つ1つが利用者本位になっているか、リーダー中心に指摘し合いながら意識共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、役割も担っている(ゴミ当番・パトロール・避難訓練・町内清掃・草刈り)。また、ホームを行事などの集合場所として提供し、地域と溶け込んだ関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方から認知症の相談が増えてきている。また、散歩時に会われた方とお話をしたり質問を頂く事もあり、話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活・レクなどの利用者様のご様子や各ユニットの取り組み、またホームの介護方針、面会ではなかなか知りえない日常支援などを説明報告している。ご意見等には検討して運営に反映している。しかし、十分な開催数に至っていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営・法改正についての疑問点のアドバイスにより、活用させて頂いたり、訪問時ホーム内の状況、運営推進会議結果、外部評価をお渡しして、活動状況を報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を把握する事で、身体拘束しない環境作りをしている。玄関、ユニット出入口は解放にし、出て行かれる際も制止しないケアを心がけている。ミーティングなどでも話し合い勉強している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等にて身体的や言葉に関し、適切なケアとなるよう話し合っている。また、管理者やリーダーが頻りに職員とコミュニケーションをとり、ストレスや悩みを抱え込まない取り組みもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにて利用されている方がいる為、管理者は理解をしたうえで連携を取っている。職員にも説明し、面談日には理解をしたうえで迎え、物品購入等の生活面において金銭関係の相談もさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読むだけではなく、具体的に説明し、理解・安心していただける様に努めている。不明点、疑問点については出来るだけ言いやすい雰囲気を作り、介護方針など詳しく説明し安心、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時には、直接話ができる機会なので、意見をいただける様に働きかけている。介護計画書説明・運営推進会議・外部評価のアンケート等、意見をいただける機会を設けて、実際のサービスにつなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個性や自立性を重んじ、同時にチーム力にてユニット毎に運営をしている。日々のメンバーやミーティング等にて、一職員としての自覚と責任で発言できている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人にあった評価をし、不得意分野があっても自信を持って働けるよう取り組みをしている。また、労働条件の見直しも実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の得意とする仕事の専門性を個人研修や面談にて伸ばし、仲間同士その能力を尊重し合うことにより、職場でのやりがいに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や会合に参加しグループワーク等で、情報交換を行っている。その内容をミーティング等で発表を行うことで職員間で共有し、サービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ面談の時に管理者・職員も加わり、困っている事・不安な事・生活歴をお聞きしながら、大切にしている事、要望等を取り入れ、安心に繋がる様に工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からご要望等話されやすい言葉がけに努め、ホームで出来ること、困っている事、不安な事に対する説明・アドバイスをさせていただき、信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況をお聞きし、ホームでのサービスが要望に応える事が出来るか・ご本人にとってどうかをご家族様と話し合う事により、他のサービスも選択をしていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の立場に立ち、生活・活動・喜怒哀楽など共に行動・共感し、家庭的な空間作り心掛け、お互いに支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の関係を大切にし、面会時や電話等にて日常の様子を伝え、情報を共有することにより、ご家族様からのアドバイスを頂き、一緒に利用者様を支えていただける方向に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所への個人レク、友人の訪問等、利用者様、ご家族様との交流を大切にしながら取り組みを実践している。また、入居前より長年通っている眼科など、遠くなくても引き続き通って頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係に気づき、ストレスにならないよう配慮している。常にご本人の気持ちを尊重しながらも仲間作りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先に極力情報提供し、転居自体がダメージにならないよう努めている。退所後もご家族様からの近況についてお話を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位を徹底し、思いや意向に気づき取り組みを日々努めている。コミュニケーションの困難なご利用者様にはご家族様からお聞きするなど、希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に、極力ご家族様の情報により、暮らし方のパターンを把握する様努め、それに近い状況から生活をして頂く為、生活歴、情報、アセスメント等を職員がいつでも共有・把握出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、心身の変化等を記録し、職員が共有する(出勤時申し送り・連絡ノート確認)変化があればその都度検討し、即日対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状況・ご家族様の意見を反映し、モニタリング、介護計画を作成している。日々の状況は個人記録に記載、申し送りから意見交換、カンファレンス等より、プランに取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化などを介護記録・申し送りノートに記入し、対応の変更にはその都度申し送りや連絡ノートにて情報を共有している。また、その場にいる職員にて瞬時に気づきを共有し連携する意識を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者様ひとりひとりの希望やケアからの気づきにより、当施設で実現可能なことは積極的に取り組む事を積み重ねて、サービス構築と満足度の向上に繋がるよう、努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの行事参加、消防署、自治会、地域の方々、医療関係の方々、飲食屋さん等、さまざまな方たちと関わりながら、またご利用様がその環境において生活されていることを実感できる支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は面談時に伺い選択して頂き、ホームのかかりつけ医と歯科等の説明・同意を頂いている。また、入居前にかかっていた病院にも入居後受診を続けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の週1回の健康チェックにより、職員では気づかない疾病の可能性を見つけて頂き、早期受診に繋げる連携をしている。また生活の中での健康維持に関するアドバイスを受け、ケアに活かされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、小さな変化を見逃さないよう、入院回避に努めている。入退院時には相互間の情報交換を行い、病院・提携医療機関・ご家族様との話し合いにより、早期退院に繋げている。面会に行き、少しでも安心して頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況に合わせ、主治医・訪問看護・ご家族様で話し合いの場を設けて、主治医から見解を話して頂いたうえで、医療提携での支援の説明、ご家族から希望をお聞きして、希望に沿うよう努めている。段階に応じて話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について全職員が把握している。考え得る急変や事故についてその都度応急手当等の実践力を身につけ適切な初期対応ができるようミーティング等にて確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し、災害時の誘導方法・役割をしっかりと担当別に把握して、昼夜問わず利用様が避難できる方法を全職員が身につける方針を持っている。管理者が代表して自治会のパトロールや防災訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケア全体について個々の人格を尊重した対応を心がけている。言葉遣いは気づいたとき話し合い検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活にて利用者様本位を徹底し、職員が一日のスケジュールを決めず、その人らしい日常をご利用者様とともに形成し、自然と自己決定の場面が多くなるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自然起床など利用者様のペースを大切に、その中で希望に沿ったり、心身状態に合わせた支援をしている。日々流動的であるとの思いを持って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性に合わせた髪型、髪の色、服装、化粧、洋服を各々選んでいただいている。洋服の買物、バランスの取れた着方、ヘアカラーなど要望により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の能力や体調に則しながら、献立を考える段階から関わって頂き、買い物、調理と一緒に楽しみながら行い、生活の一場面として大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、水分量、食べる能力等を把握し、職員間で共有しその時に合った形態を実行している。変化があれば利用者様の状態を話し合い検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ、歯科医の指導により、各利用者様が出来るところはやっていただき、出来ないところは職員が介助することで毎食後行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、誘導、声かけ等することで失禁をできるだけ減らし、トイレでの排泄を支援している。尊厳を大切にしながら自立を目指し必要に応じユニットで話し合いながら取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけることにより、パターンを知り、便秘を見逃さずそれによる影響を考えている。便秘対応として、散歩、水分補給、運動、牛乳摂取、と工夫した支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調も配慮し、声かけや誘導や入浴方法も個々に合わせた支援に努めている。ご希望とされる時間帯や頻度に応じ、1対1のゆっくりとした時間の中で思い思いの入浴を楽しんで頂けるよう心掛け、ご希望があれば19時台などの時間帯も楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間・起床時間を一律に定めず、自由にして頂いている。健康面に注意しながら昼寝も希望があれば休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容・目的を理解し、良好な医療連携を保ちながら体調の変化を観察することにより、安心した生活を送ることが出来るよう支援をしている。薬情をファイリングし、すぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活を実感できる様、掃除機、洗濯物干し、食事準備など、個々の力に合わせた支援をしている。また、人生においての思いもお聞きし踏まえた支援をすることで、生きがいを育てる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、喫茶店、外食、買物、庭いじりは頻度多く行い、生活の一部と実感して頂けるよう心掛けています。また、図書館利用など個々の生活の中に自然と外出するような支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来る方には個々で持っていていただき見守り、出来ない方は職員が見守り支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状況に応じて、申し出があるときは対応している。時には、暑中見舞い、年賀状を書いている。ご家族様に送り、関係継続して頂くように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境に配慮し、利用者様が混乱しない配置、利用者様の状況変化に対応し、季節感を感じる飾りつけ・光・明るさ・音の大きさ等、温度、湿度と心地よい空間となるよう、随時工夫している。また、ご利用者様の好みや癖なども考慮し、環境を整備させて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方との座る位置、テレビを見るときソファの位置と個々の変化に合わせた配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの道具・家具を使用して頂き、写真(家族の)・仏壇等大切にしているものを居室に置いて頂いて、利用者様の安心を少しでも支援できるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に行動できるように個々の力を全体的に考慮した環境作りをしている。必要に応じてタンスには物品名を掲示出来る事の支援に努めている。		